

# 徘徊高齢者の事故防止

判断力の低下した認知症高齢者による徘徊が増えています。それに伴い認知症高齢者が巻き込まれる事故も発生しています。市では、徘徊高齢者の事故を未然に防ぐため、警察署、民生委員、区長会などと連携し「大野市徘徊高齢者SOSネットワーク」を構築しました。

## ネットワークの役割

認知症高齢者が行方不明となった場合、事故など生死にかかわる可能性があり、早期発見が重要です。ネットワークでは関係機関で情報を共有し、目撃情報の収集を行います。収集した目撃情報は、捜索を行っている警察や防犯隊に提供し、行方不明者の早期発見と保護を図ります。

私たち一人一人ができることとして、普段から地域で見守る意識を持つことも大切です。

## 事前に登録を

ネットワークを利用するためには事前に登録が必要です。

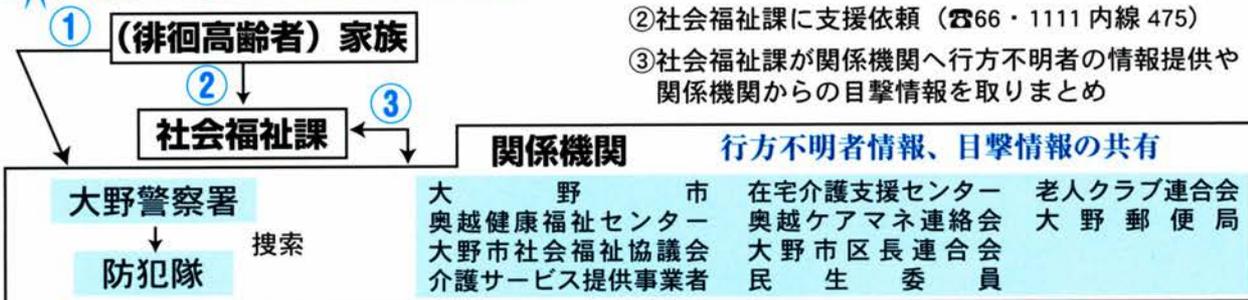
事前登録がない方でも支援を受けることはできますが、支援依頼書の提出などに時間を要します。行方が分からなくなったときに備え、事前の登録をお願いします。

登録は最近撮影した写真と印鑑を社会福祉課まで持参してください。身長や体重、眼鏡をかけているかなど、外見上の特徴を登録票に記入してもらいます。(登録票は公民館や介護サービス事業所にも置いてあります。)

なお登録された情報は、目的以外で使用することがないように取り扱いに十分配慮します。

社会福祉課高齢福祉係  
66・1111内線475

## 行方が分からなくなったら



- ①大野警察署に検索願 (☎65・0110)
- ②社会福祉課に支援依頼 (☎66・1111内線475)
- ③社会福祉課が関係機関へ行方不明者の情報提供や関係機関からの目撃情報を取りまとめ

# 市民リポーター決まる

今年度の市民リポーターに五人の方が決まりました。市民リポーターならではの視線や感性を生かした記事を「てくてくリポート」の中で掲載していきます。

※市民リポーターのコメントは「取り上げたいテーマ」

遺跡の発掘調査を実際に体験して、遺跡の紹介をしてみたいです。

宮原 健太郎さん  
(65歳・下据)

6月30日に全線復旧となった越美北線を取り上げたいです。

島崎 みゆきさん  
(20歳・木本)

大野でもまだ行ったことのない場所が多いので取材してみたいです。

西村 祥一さん  
(26歳・清瀧)

大野でカヌー競技に打ち込んでいる高校生を取材してみたいです。

竹内 徳代さん  
(30歳・国時町)

以前体験した牧場での作業を通じ、大野の自然の良さを伝えてきたいです。

酒井 歩美さん  
(21歳・矢)



2543人が快走

## 「越前大野名水マラソン」

当市最大のスポーツイベント「越前大野名水マラソン」が5月27日に開催されました。シドニーオリンピック1万に出場した高橋千恵美さんをゲストに迎え、全国から2543人のランナーが快走しました。



沿道を彩る花の横を走り抜けるランナー

## 北と南から笑顔の2人

北海道出身の鈴木利明さん(写真右)と福岡県出身の藤目浩さん(同左)。鈴木さんは「インターネットでレースを知って初めて参加しました。日本の原風景の中を走っているようでした」。藤目さんは「走りやすい公認コースなので毎年参加し、今年で12回目です」と語ってくれました。



笑顔で走る  
ゲストランナー(中央)

教 育 の ペ

一 ツ

## 児童497人が体感 一流陸上選手が大野に



日本陸上競技連盟が主催する「キッズアスリートプロジェクト」が5月22日、有終南小学校で開催されました。これは、日本を代表する陸上選手がスポーツの楽しさを伝えるため全国で行っているものです。



福井県出身の熊谷選手と直接対決した6年生の児童は口々に「楽しかった」「一瞬で抜かれた」「勝てると思ったけど…」熊谷選手は「この機会にハードルをもっと楽しんでもらえれば」。

→「できるだけ地面についている時間を短くしましょう」と声を掛けながら指導する杉林選手



←子どもたちと一緒に給食を食べる小林選手。「給食は学校卒業以来です」と話しながら、子どもたちが用意した山盛りのご飯を勢いよくほお張っていました。





# 市民のページ

足拍子で気持ちわくわく



見物客も踊りの輪に参加（5月20日九頭竜新緑まつり）

昭和四十年代の九頭竜ダム  
の開発がきっかけで、多くの  
人が穴馬地区を離れることと  
なりました。ふるさとから離  
れることで約四百年の伝統が  
ある踊りが失われていくこと  
を不安に思った有志が、後世  
に残していこうと昭和四十七  
年に結成されたのが「穴馬民  
踊保存会」です。現在、三十  
代から七十代までの四十人が  
所属しています。

昭和四十年代の九頭竜ダム  
の開発がきっかけで、多くの  
人が穴馬地区を離れることと  
なりました。ふるさとから離  
れることで約四百年の伝統が  
ある踊りが失われていくこと  
を不安に思った有志が、後世  
に残していこうと昭和四十七  
年に結成されたのが「穴馬民  
踊保存会」です。現在、三十  
代から七十代までの四十人が  
所属しています。

八月十四日に和泉地域福祉  
センターで開催される「ふる  
さと夏祭り」では、中心とな  
って活動しているほか、地元  
の小中学生に踊りの継承を行  
ったり、大野市総合文化祭に  
参加したりするなど活動を行  
っています。また、九頭竜新  
緑まつりにも参加し、今年も  
ステージイベントの最後を飾  
りました。「当日は天気もよ  
く、気持ちよく踊れました。  
ステージ上だけでなく、ステ  
ージの前でも踊り、踊りを知  
らない見物客も踊りの輪の中  
に入ってくれて盛り上がった  
のが嬉しかったですね」と参  
加した森尾喜久代さん。西照  
美さんは「何もかも忘れて踊  
れるのが魅力で踊りの足拍子  
が聞こえてくるとわくわくし  
た気持ちになる」と語って  
くれました。



保存会では今後も歌い手  
ある音頭とりを確保しながら  
活動を行っていくそうです。

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は、  
情報広報課まで ☎0779・66・1111



内山 昭克さん (67歳・中挟)

内山さんは40年以上にわたって理容・美容はさみ製造に従事し、日本で唯一0.3mmまで刃先を細く作ることができるなど、優れた技術の持ち主です。

—この仕事を始めたきっかけは

理容器具を卸す兄の店に勤めていた時に、当時日本一と言われていた大阪の修理専門店に依頼したはさみが、素晴らしいものになって戻ってきたのを見てとても感動しました。自分もこんな仕事がしたいと思いました。

—これまでに苦勞した点などは

職人のもとで、一つ一つの作業を見て覚え



ました。家に帰って実際に作業してみるとうまくいかないし、やり方がよく分からない。来る日も来る日も繰り返し勉強しましたね。20年前に息子が跡を継ぐことになりそれから会社を設立し自社ブランドのはさみを作っています。

—はさみはどれくらい使えますか

材質にもよりますが、2000人ほど髪を切ると切れ味が悪くなってきます。研ぎや修理をすることでまた切れ味が戻るので一丁のはさみを一生使うこともできます。

—気を付けていることは

髪質が地域によって違うので、実際に全国各地へ行き、自分の目と耳で情報を集め、地域ごとに刃付けを行っています。使う人の手になじむよう細かく打ち合わせをして、作り手は心を入れて、使う人は誇りを持って仕事ができるように仕上げています。はさみを作って終わりではなく、その後の修理などが大事で40年近くお付き合いさせていただいている方もいます。使い勝手のいいはさみにするため、使う人の要望に応じていくことが重要だと思っています。

理容・美容はさみ製造第一人者  
使う人の要望に応じて

**【一般小説】**  
天使の軍隊 (佐々木敏) 百年恋人 (新藤冬樹) 聖餐城 (皆川博子) エンデの島 (高任和夫) 神田川アイズ (豊島ミホ) メタボラ (桐野夏生) **【アンフィクション】**  
日本一短い父への手紙、父からの手紙 (丸岡町) いのちのレッスン (新藤兼人) そのまんま日記 (東国原英夫) モグラ女の逆襲 (残間里江子)

**【児童図書】**  
あかりの木の魔法 (岡田淳) 一年中わくわくしてた (ロアルド・ダール) わにのニクんのゆめ (角野栄子) 子どもに語るロシアの昔話 (伊東一郎) **【絵本】**  
おじさんのブッシュタクシー (クリスチャン・エバンヤ) ぞくぞくぞぞぞ (九州国立博物館) くだものなんだ (きうちかつ) がたごとばんたん (パット・ハッチンス) ふしぎのタネ (アータ・ローベル)



読書のススメ  
『あこがれの家電時代』  
清水慶一 著  
河出書房新社 刊

この本では明治から昭和までの家電の移り変わりを豊富な写真で紹介しています。

初めて買ったころのテレビや洗濯機、買い換えたものなど、懐かしく思い出し、今では身の回りに電化製品がたくさんあることに驚きます。また、同時に生活様式の大きな変化を確認することができます。

図書館では大野ライオネスクラブから寄付された本のコーナーを設置しています。この本は今年いただいたうちの1冊です。





## “五番”で物産・味覚市

5月26日から27日にかけて、五番通りで「奥越前の物産と全国味覚市」が開かれました。そば茶屋やみたらし団子など26店舗が軒を連ね、お目当ての物産を買い求める観光客でにぎわいました。

## 市民学校スタート

今年度の市民学校が6月2日に開校しました。開校式では「南（ばい）ぬ風人（かじびとう）まーちゃんバンド」が歌を通して、命、自然、平和の大切さを訴えました。12月までの毎月、全15回にわたってコンサートや講演会などを開催していきます。



人権啓発講演会を兼ねて開校した市民学校



市長から認定書を受け取る水元清江園長  
(6月1日 市長室)

## 食育モデル園に上庄保育園認定

幼児期からの食育を積極的に進めるため、市では上庄保育園を「平成19年度越前おおの食育推進モデル保育園」として認定しました。今後、園では食育活動に積極的に取り組んでいきます。

## 「西部アクセス道路」ルート案探る

国道158号犬山交差点と六間通りを結ぶ西部アクセス道路（仮称）。これまでの経緯を踏まえた上でルート案を決定する検討会の初会合が5月30日、有終会館で開かれました。今後数回にわたり会議を開催し、秋ごろには結果を市長に報告することとなっています。



会長に就任し、あいさつする山田晃氏



# 話題のひろば

緑 テーマに



新緑ステージ前広場で披露された踊りに飛び入り参加する子ども



九頭竜川の“源流”に見入る



森林探索で日本百名山「荒島岳」  
(標高1523m)を眺める



丸太を加工して自分たちだけのいすを作る家族



植樹会場で苗植える和泉中学校生徒



緑の少年団による募金活動

## 新緑まつりと県緑化大会

九頭竜国民休養地を会場に、5月19日から20日にかけて「新緑まつり」を開催しました。大勢の観光客が訪れ、ステージイベントやいす作りなどを楽しんだり、旬の食材を買い求めたりしていました。また20日には同会場をメイン会場に「福井県緑化大会」も同時開催。九頭竜川の源流を巡るツアーや参加者による植樹、緑の少年団による募金活動などを行いました。



# 笑顔！で「いただきます」④

## 大豆入りツナご飯



### 材料（一人分）

※分量は給食の献立に基づき表示

- ・米 70g
- ・シーチキン 30g
- ・大豆 6g
- ・ニンジン 10g
- ・ショウガ 1g
- ・ごま 0.8g

子供たちの健康を支えている給食献立から「大豆入りツナご飯」を紹介します。

## 給食からも一品



### 作ってみよう

#### 【まず】

大豆は前日からもどしておく。ショウガはみじん切り、ニンジンは細めの短冊に切っておく。

- ①シーチキンとショウガ1gを、油を入れずにいためる
- ②大豆とニンジンは、しょうゆ2.5g、砂糖1.5gでやわらかくなるまで煮る
- ③①と②にごま0.8gをからめて、ご飯と混ぜる

### 達人のワンポイントアドバイス

給食では前日に水に浸してもどしてから使用する大豆ですが、家庭では缶詰などを使うことで手間なく作れると思います。子供たちに人気の混ぜご飯に入っているの、抵抗なく食べられます。

（学校調理師

西行美幸さん）



## 市民のうごき

平成19年6月1日現在

世帯数	12,301世帯（9世帯）
人口	39,028人（4人）
〈男〉	18,629人（3人）
〈女〉	20,399人（1人）

### ◆5月中の内訳

転入	84人	出生	33人
転出	81人	死亡	32人

人当たりの飲酒運転の割合が最も高かったことから、市内で初めて開催された交通安全フェスティバル。さまざまな体験が用意され、多くの市民でにぎわいました。その中の一、時速五<sup>+</sup>での衝突体験コーナーでは「五<sup>+</sup>でも衝撃すごいな。シートベルトはちゃんとしっかりと」と話す親子の会話も。（山口）



## 編集後記

大野警察署管内で昨年死亡事故が九件も発生。また県内九市の中で、免許を持つ一人一人



七月の暦を見て「山の日の休みはいつ」と質問された。海の対義語は山、国民の祝日に山の日は制定されていない。みどりの日があるが制定の由来を見ると山の日はちよつと異なる。海の日、海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願つと定められている。日本の国土の大半は山林である。山の恩恵にも感謝しなければと思うのだが

▼山の日の検索。「山梨県山の日」が八月八日を定めイベントを募集し助成、「きしゅう山の日」が十一月七日、「こうち山の日」が十一月十一日、また登山関係協会が10（と）3（さん）の語呂あわせで十月三日など▼いずれも先祖が守り育てた山林への畏敬の念や自然を守ることの大切さ、それを次世代へ引き継いでいく必要性を定義▼当市の森林面積は市全体の八割以上を占め、県内唯一の百名山荒島岳をはじめ経ヶ岳、銀杏峰など標高千以上の山々がそびえる▼第五回越前大野感性はがき展のテーマが今回は「山」▼自然破壊、環境保全が叫ばれる今「おおの山の日」を定め、越前おおの元気プランの「豊かな森林資源の保全と林業活性化」を各分野のネットワーク化で全国に情報発信したい。そのためには、市民全員がおいしい空気や水、豊かな自然に感謝と誇りを認識することが第一歩（安田）